

平成三十年度入学者選抜学力検査問題

九時—十時三十分

地域デザイン科学部志願者

コミュニティデザイン学科を志願し、国語を

選択した者

教育学部志願者

学校教育教員養成課程(学校教育・特別支援

教育系、教科文系)を志願し、国語を選択し

た者

農学部志願者

農業経済学科を志願し、国語を選択した者

国語(国語総合)

(本文 12ページ)

〔注意〕

1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この冊子には、三問題ある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。所定の欄以外に記入したものは無効である。

**第1問**

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(井筒俊彦「記号活動としての言語」による。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。)

注1 アセチルコリン⇨神経組織に存在する神経伝達物質。

注2 シラブル⇨音節。

注3 カール・フォン・フリッツシュ⇨一八八六年生、一九八二年没。オーストリアの動物行動学者。

注4 ヴェルレーヌ⇨ポール・ヴェルレーヌ(一八四四年生、一八九六年没)。フランスの詩人。

注5 碧巖録⇨へまがんろく中国宋時代の仏教書で、臨済宗において重視される教本。俱胝はそこに出てくる和尚の名。

注6 スチュワート・チェイス⇨一八八八年生、一九八五年没。アメリカの経済学者。

問1 傍線部①、⑤のカタカナを、それぞれ漢字で記せ。

問2 傍線部②「言語のこのような使い方」とあるが、どのような使い方が、わかりやすく説明せよ。

問3 傍線部③「外在物を人間の心内にまで取り入れること」とあるが、ここでは具体的にはどのようなことか。「ネコ」と「猫」という筆者の語の使い分けの例を使って説明せよ。

問4 傍線部④「現に身を置いているシチュエーションにかたく結びつけられている」とあるが、これと対照的な表現を本文中から抜き出せ。

問5 傍線部⑤「シンボルの場合は、AとBの間に謂わば無限の次元の開きが可能である」とあるが、それはなぜか。サインとの違いを明確にしながらかりやすく説明せよ。

問6 筆者は、人間にとっての言語活動とはどのようなものであると考えているか。本文全体をふまえて簡潔に説明せよ。

## 第2問

次の文章は谷崎潤一郎の小説「小さな王国」(一九一八年)の一節である。異様な魅力で同級生を統率していく少年・沼倉に対し、小学校教師の貝島は、その統率力を巧みに利用しようとするが、思わぬ方向に事態は進展していく。これを読んで後の問いに答えよ。

沼倉は不良少年ではない。餓鬼大将としても頗る殊勝な嘉すべき餓鬼大将である。同級の生徒を自分の部下に従えて威張り散らすという事は、そういう行為を許して置くことは多少の弊害があるにもせよ、生徒たちが甘んじて悦服して居るのなら、強いて干渉する必要もないし、干渉したところで恐らく効果がありそうにもない。いや、それよりも寧ろ沼倉の行いを褒めてやる方がいい。子供ながらも正義を重んじ、任侠を尚ぶ彼の気概を賞讃して、なおこの上にも生徒の人望を博するように励ましてやろう。彼の勢力を善い方へ利用して、級全体の為めになるように導いてやろう。貝島はこう考えたので、ある日授業が終つてから、沼倉を傍へ呼んだ。

「先生がお前を呼んだのは、お前を叱る為めではない。先生は大いにお前に感心して居る。お前にはなかなか大人も及ばないらしい所がある。全級の生徒に自分のいい付けをよく守らせるという事は、先生でさえ容易に出来ない<sup>②</sup>仕業だのに、お前はそれをちゃんとやって見せて居る。お前に比べると、先生などは却つて恥かしい次第だ」

人の好い貝島は、實際腹の底からこう感じたのであつた。自分は二十年も学校の教師を勤めて居ながら、一級の生徒を自由に治めて行くだけの徳望と技量とにおいて、この幼い一少年に及ばないのである。自分ばかりか、総べての小学校の教員のうちで、よく餓鬼大将の沼倉以上に、生徒を感化し心服させ得る者があるだろうか。われわれ「学校の先生」たちは大きななりをして居ながら、沼倉の事を考えると忸怩たらざるを得ないではないか。われわれの生徒に対する威信と慈愛とが、沼倉に及ばない所以のものは、つまりわれわれが子供のような無邪気な心になれないからなのだ。全く子供と同化して一緒に遊んでやろうという誠意がないからなのだ。だからわれわれは、今後大いに沼倉を学ばなければならない。生徒から「恐い先生」として畏敬されるよりも、「面白いお友達」として気に入られるように努めなければならない。……

「そこで先生は、お前がこの後もますます今のような心がけで、生徒のうちに悪い行いをする者があれば懲らしめてやり、善い行いをする者には加勢をして励ましてやり、全級が一致してみんな立派な人間になるように、みんなお行儀がよくなるように導いて貰いたい。これは先生がお前に頼むのだ。とかく餓鬼大将という者は乱暴を働いたり、悪い事を教えたりして困るものだが、お前がそうしてみんなの為めを計ってくれば先生もどんなに助かるか分らない。どうだね沼倉、先生のいったことを承認したかね」

⑦ 意外の言葉を聴かされた少年は、腑に落ちないような顔をして、優和な微笑をうかべて居る先生の口元を仰いで居たが、暫くたつてから、ようよう貝島の精神を汲み取る事が出来たと見えて、

「先生、分かりました。きつと先生の仰つしやる通りにいたします」

と、いかにも嬉しそうに、得意の色を包みかねてニコニコしながらいった。

貝島にしても満更得意でないことはなかった。自分はさすがに、児童の心理を応用する道を知つて居る。一つ間違えば手に負えなくなる沼倉のような少年を、自分は巧みに善導した。やっぱり自分は小学校の教師として何処か老練なところがある。そう思うと彼は愉快であつた。

(中略)

貝島が我ながら老練な処置だと思つて己惚れて居た餓鬼大将操縦策は、半ば成功したにも拘らず、いつの間にかその弊害も多くなつて居た。一度教師から案外な賞讃と激励の辞を聞かされた沼倉は、大いに感奮すると同時に一層凶に乗つて活躍し出した。彼は第一に、同級生の人名簿を作つて、毎日生徒たちの言動を観察しては、彼独特の標準の下に一々嚴重な操行点を附けて行つた。出席、欠席、遅刻、早帰り、——そういう事柄をも、先生が行うのと同じような権威を以て、一々帳面へ書き留めた事はいう迄もない。のみならず、欠席者には欠席の理由を届けさせた上、別に秘密探偵を放つて、果してその理由が真実かどうかを調べさせた。道草を食つて授業に遅れたり、仮病を使つて休んだりする者は直ちに探偵の為に証拠を掴まれるから、好い加減な諷をつく訳には行かなかつた。——貝島は、この頃はさっぱり欠席や遅刻をする生徒がない、C町の荒物屋の悴の、橋本



という病身な子供までが、真青な、元氣のない顔をしながら、感心に毎日学校へ通つて居る、何にしても皆が非常に勉強家になつたらしい、結構な事だと喜んで居たのであつた。——探偵には七八人の子供が任命されて居た。彼等は常に級中の怠け者の家の周囲を徘徊したり、密かに跡をつけたりして、油断なく取り締まつて居る。勿論一方にはきびしい罰則が設けられて、命令を背いた場合には、たとひそれが級長であつても、或は、沼倉自身であつても、甘んじて制裁を受けなければならなかつた。

罰則の種類がだんだん殖えて来るに従つて、制裁の方法も複雑になり、探偵の人数も増すようになった。しまいには探偵以外に、いろいろの役人が任命された。先生から指名された級長は其方除けにされて、代りに腕力のあるいたずら者が、監督官に任ぜられる。出席簿係り、運動場係り、遊戯係り、というような役も出来る。大統領の沼倉を補佐する役が出来る。裁判官が出来る、その副官が出来る、高官の用を足す従卒が出来る。役人のうちでも一番位の高いのは、副統領の西村であつて、これは二人の従卒を使つて居た。優等生の中村と鈴木とは、始めのうちは性質が懦弱なために輕蔑されて居たけれど、次第に沼倉から尊敬されて、後には大統領の顧問官になつた。

それから沼倉は勲章を制定した。玩具屋から買つて来た鉛の勲章へ、顧問官に命じてそれぞれ尤もらしい稱呼を付けさせて、功劳のある部下に与えた。勲章係りという役が又一つ殖えた。するとある日、副統領の西村が、誰かを大蔵大臣にさせて、お札を発行しようじゃないかという建議を出した。この発案は、一も二もなく大統領の嘉納する所となつたのである。

洋酒屋の息子の内藤という少年が、早速大蔵大臣に任ぜられた。当分の間の彼の任務は、学校が引けると自分の家の二階に閉じ籠つて、二人の秘書官と一緒に、五十円以上十万円までの紙幣を印刷する事であつた。出来上つた紙幣は大統領の手許に送られて、「沼倉」の判を捺されてから、始めて効力を生ずるのである。総べての生徒は、役の高下に準じて大統領から俸給の配布を受けた。沼倉の月俸が五百万円、副統領が二百万円、大臣が百万円、——従卒が一万円であつた。

こうしてめいめいに財産が出来ると、生徒たちは盛んにその札を使用して、各自の所有品を売り買いし始めた。沼倉の如きは財産の富有なのに任せて、自分の欲しいと思う物を、遠慮なく部下から買い取つた。そのうちでもいろいろと贅沢な玩具を持つ

て居る子供たちは、度々大統領の徴発に会って、いやいやながらそれを手放さなければならなかった。S水力電気会社の社長の息子の中村は、大正琴を二十万円で沼倉に売った。有田のお坊ちゃんも、この間東京へ行つた時に父親から買つて貰つた空気銃を、五十万円で売れといわれて、抛よ所なく譲つてしまった。最初はそれが学校の運動場などでポツリポツリとはやって居たのだが、果ては大袈裟おぢげまになつて来て、毎日授業が済むと、公園の原っぱの上や、郊外の叢くまひらの中や、T町の有田の家などへ、多勢寄り集つて市を開くようになった。やがて沼倉は一つの法律を設けて、両親から小遣い銭を貰つた者は、総べてその金を物品に換えて市場へ運ばなければいけないという命令を發した。そうして已やむを得ない日用品を買う外には、大統領の發行にかかる紙幣以外の金銭を、絶対に使用させない事に極めた。こうなると自然、家庭の豊かな子供たちはいつも売り方に廻まわつたが、買取つた者は再びその物品を転売するので、次第に沼倉共和国の人民の富は、平均されて行つた。貧乏な家の子供でも、沼倉共和国の紙幣さえ持つて居れば、小遣いには不自由しなかつた。始めは面白半分にやり出したようなものの、そういう結果になつて来たので、今ではみんなが大統領の善政ぜんせいを謳歌おうかして居る。

それで、子供たちが彼等の市場で売捌うりばいて居る物品は非常に広い範圍に亙わたつて居るらしく、二十幾種に及んで居た。即ち左記の通りである。――

西洋紙、雜記帳、アルバム、絵ハガキ、フィルム、駄菓子、焼芋、西洋菓子、牛乳、ラムネ、果物一切、少年雜誌、お伽おとぎ噺ばなし、絵の具、色鉛筆、玩具類、草履ぞうり、下駄げた、扇子、メタル、ナイフ、万年筆、

このように多種類の物品が網羅されて居て、彼等の欲しいと思うものは、市場へ行けば殆ど用が足りるのであった。

(谷崎潤一郎「小さな王国」による。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。)

注1 嘉すべきよましとしてほめるべき。

注2 大蔵大臣だいざうだいじんは旧大蔵省を管轄した國務大臣の名称で、現在の財務大臣にあたる。

注3 嘉納かのうは快く受入れること。

注4 五十円ごじゅうえんはこの小説が発表されたのは、一九一八年。例えば、当時の小学校教員の初任給(月俸)は、およそ十二円じふにえんと二十円とされる(一九一八年統計)。

問1 傍線部①と⑤の漢字の読みを、それぞれひらがなで記せ。

問2 傍線部⑦「意外の言葉」とあるが、なぜ「意外」であったのか、簡潔に説明せよ。

問3 傍線部①「瞬みづに落ちない」の意味を記せ。

問4 傍線部②「餓鬼大将操縦策」とはどのようなことか、簡潔に説明せよ。

問5 傍線部③「何にしても皆が非常に勉強家になつたらしい、結構な事だと喜んで居たのであった」とあるが、貝島のこの認識に反して、そこには同時に「結構な事」とはいえない弊害が発生している。それはどのような弊害か、簡潔に説明せよ。

問6 傍線部④「大統領の善政(?)」とあるが、ここでは一見「善政」と見えるが、「？」を付して、疑義が投げかけられている。

- (1) 一見「善政」と見えるのはどういう点か述べよ。さらに(2)なぜ疑義が投げかけられているのか、簡潔に説明せよ。(1)、(2)、それぞれの解答欄に記せ。

第3問 次の文章は、『采花物語』の中の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

上、藤壺に渡らせたまへれば、御しつらひありさまはさもこそあらめ、女御の御ありさまもてなし、あはれにめでたく思し見  
たてまつらせたまふ。姫宮をかやうにおほしたてまつらばやと思しめさるべし。こと御方々みなねびとのほらせたまひ、およ  
すけさせたまへれば、ただ今この御方をば、わが御姫宮をかしづき据ゑたてまつらせたまへらむやうにぞ御覧せられける。年ご  
ろの御目移り、たとしへなくあはれにらうたく見たてまつらせたまふべし。

打橋渡らせたまふよりして、この御方の匂ひは、ただ今あるそら薫物ならねば、もしは何くれの香の香にこそあんなれ、何と  
もかかえず、何ともなくしみ薫らせ、渡らせたまひての御移香はこと御方々に似ず思されけり。はかなき御櫛の箱、硯の筥の  
内よりして、をかしうめづらかなる物どものありさまに御覧じつかせたまひて、明けたてばまづ渡らせたまひて、御厨子など御  
覧ずるに、いづれか御目とどまらぬ物のあらん。弘高が歌絵かきたる冊子に、行成君の歌書きたるなど、いみじうをかしう御覧  
せらる。「あまりもの興じするほどに、むげに政知らぬしれものにこそなりぬべかめれ」など仰せられつつぞ、帰らせたまひ  
ける。

昼間などに大殿籠りては、「あまり幼き御ありさまなれば、参りよれば翁とおぼえて、われ恥づかしうぞ」などのたまはするほ  
ども、ただ今ぞ二十ばかりにおはしますめる。同じ帝と申しながらも、いかにぞやかたなりに飽かぬところもおはしますもの  
を、この上は、いみじう御かたちよりはじめ、きよらにあさましきまでぞおはします。

大御酒などはすこしきこしめしけり。御笛をえもいはず吹きすませたまへれば、さぶらふ人々もめでたく見たてまつる。う  
ちとけぬ御ありさまなれば、「これうち向きて見たまへ」と申させたまへば、女御殿、「笛をば声をこそ聞け、見るやうやはある」  
とて、聞かせたまはねば、「さればこそ、これや幼き人。七十の翁の言ふことをかくのたまふよな。あな恥づかしや」と戯れきこ  
えさせたまふほども、さぶらふ人々、「あなめでたや。この世のめでたきことには、ただ今のわれらが交らひをこそせめ」とぞ、  
言ひ思ひける。なにはのことも並ばせたまふ人なき御ありさまにおはします。

注1 上||ここでは、一条天皇のこと。

注2 女御||ここでは、藤原彰子のこと。藤原道長の長女で、一条天皇に入内した。宮中では藤壺と呼ばれる部屋に住んでいる。

注3 姫宮||ここでは、脩子内親王のこと。一条天皇の第一皇女で、母は藤原定子。

注4 そら薫物||どこから薫るのか分からないように焚く香。

注5 弘高||巨勢弘高。当時の代表的な画家であった。

注6 行成君||藤原行成。当時の書の第一人者。

問1 傍線部ア「おやすけさせたまへれば」を現代語訳せよ。

問2 二重傍線部①「見たてまつら」、②「おはします」、③「見たてまつる」は敬語表現である。これらの敬意の対象は誰であるか（誰に対する敬意であるか）、それぞれ答えよ。

問3 傍線部イ「われ恥づかしうぞ」とあるが、帝はなぜ「恥づかし」と感じるのか、説明せよ。

問4 傍線部ウ「さればこそ、これや幼き人」とあるが、帝はなぜこのように言ったのか、わかりやすく説明せよ。

問5 傍線部エ「戯れきこえさせたまふ」とあるが、どのような点が「戯れ」であるのか、説明せよ。

問6 帝は女御（彰子）のどのような点に惹かれていたか、本文全体からわかることを述べよ。